

■プロローグ

幸せへの坂道というものは、当然登っていくものだと、今までは常識として思っていたのですが、果たして登るだけでしょうか、逆に、降りるという選択もあるのではないのでしょうか。登ることが絶対にダメだということではありませんが、今までにない選択肢を示すことで、生きることの選択肢は広がっていくと思っています。

私は2000年まで、とある企業におり、脱サラしました。どこの会社もそうでしょうが、前年対比が重要視されます。常に「去年より売れ！」と命じられ、毎日の、そして時間帯の目標数値まで降ってきます。私は個人の成績はよかったです、だんだん職責が上がるにつれ厳しくなり、最後は、電車が来ると、飛び込んだら楽だろうと…自殺が常に頭の中に寄り添っているような、そんな苦しい30歳寸前までサラリーマンでした。で、会社をやめたんです。もう体が壊れちゃったら、しょうがないですね。

そのときに、経済成長を目指すことが、よくよく考えたらおかしいのではないかと思ったのです。私は今45歳ですから、15年前の話です。また2003年に、イラク戦争を機に社会活動も始めるようになりました。石油のために誰かを殺すなんておかしい。2004年に、1人だけで営むオーガニックバーを開業しました。「成長しない店」を目標に、もうかったら必ず売上げを下げる努力をする変な店なんですね。今、週休3日です。お米と大豆を自給するようになって、ますます稼がなくてよくなりました。2010年には、『減速して自由に生きる ダウンシフターズ』という本を書かせていただくことになりました。

そんなときに白羽の矢が立って、「緑の党 Green Japan」という、フランスやニュージーランド、オーストラリアをはじめ世界90カ国にあって、ドイツでは連立与党に入ったりしていますが、経済成長ではない幸せを党是にした、世界的ネットワークの党を日本でも作ろうということで、いきなり飲み屋のおやじである私が代表になってしまったのです。私は国会議員になるつもりはないので2014年に代表はおろさせていただき、さらに経済成長が本当に必要なのかということを広げていきたいと思い、「脱成長ミーティング」を発足させて、いろいろな活動をしております。

■経済成長を目指した結果

組合の皆さん、やはり定昇やベアを求めるには本当に厳しい時代ですよ。皆さんにはお給料を勝ちとっていただきたいと心から思っているのですが、一方で、こういう生き方があるんだ、というふうにご覧いただけたらと思うのです。

世間では、テレビもラジオも新聞も政治家も、すべてを解決するために「経済成長」と言います。でも、それがおかしいことにみんな何となくうすうす気づいているんですね。例えば、消費増税は一応凍結になりましたが、増税、解雇の自由、残業代をなくす、年金を減らす、配偶者控除をなくす、共働きしましょう、子供をたくさん産みましょう、でも保育所は余り増やしません、法人税は下げます…これも経済成長の「ため」なんですね。

例えば、政権が自民党になってからの2年前の数字ですが、たった2年間で年収1000万円の人が増えました。172万人から185万人まで、13万人増えたんです。でも、年収200万円以下の人たちは、なんと29万人も増えているんです。年収1000万円以上の人はたった185万人ですから、年収200万の人は、1119万人、労働者という意味では、計算上5人か6人に1人は200万以下で暮らしているということですよ。これが実態です。

その一方で、オリックスの宮内さんは54億の報酬を何に使うんでしょう。それに、2年前の数字で大企業の内部留保がおよそ300兆円。でも実質賃金はどんどん下がってきているわけです。そしてついこの間発表された内部留保の数字は367兆円。アベノミクスが始まる前が273兆円ですから、なんと約100兆円上がったんです。なのに、従業員の給与総額は減っている。大企業が儲かっても、賃金として人に金を回さないわけです。

■大企業は税金を払わない？

それどころか、税金も払わない。やっと最近報道されるようになったタックスヘイブンに子会社を置いて、どこの国にも税金を払わない。アップル（私もユーザーですが）やスタバはどこにも税金払ってないんです。アマゾンが一番ひどい。たしか日本でも百何十億円の税収を逃れています。だからあんなに安くできるんです。

パナマ文書なんてほんの一部です。タックスヘイブンは他にもたくさんあって、例えばケイマン諸島だけでも日本企業が55兆円隠しているんです。これはアメリカに次いで第2位。東証に上場している上位50社のうち45社がタックスヘイブンを使っているんです。毎年100兆円が流れているんですよ。日本の国家予算が同じ額を大企業は隠しているんです。

税金を払わない大企業の実態はどうでしょう。ソフトバンクは実際の税率が0.006%で500万円しか払っていないんです。ユニクロはあれだけもうかっているのに6.92%、自民党は法人税率が高いと37%からついこの間、29%まで下げましたね。でもユニクロでさえ6%しか払っていない。財務省で調べたら、日本の大企業のうち、1社も29%の最高税率で払っている企業はないそうです。

三井住友なんて2013年は300万円しか払っていないんですよ。私の年収と一緒にです。ソフトバンクは500万円ですよ。おかしいですよね。しかも、銀行系には、私たちの税金が使われている。私たちが彼らに利益をくれてやっているようなものです。本来、資本主義では失敗したら市場から撤退するのが原則ですが、しないんです。

■行きつく先は…

どんどん自由化して規制緩和し、市場を整備すると海外からお金が入ります。バブルが発生して、国も地方も借金がどんどん増えて、今度は海外にマネーが流出します。そうするとこんどは労働規制を緩和して非正規を増やしていき、給料格差がつき二極分化します。つぎに企業が淘汰されたり、合併するとまた海外からお金が入ってきて、バブルが発生して超のつくお金持ちが生まれて、そして失業率は下がらない。そして地域や共同体が荒廃し、治安が悪化します。

また株価を見ると、一番の頂点がバブルの時代で、今は1万6000円前後でしょうか。量

的金融緩和をしてもたかだかこのレベル、リーマンショックの2007年にも至っていないんです。結局何をやって経済成長なんかできません。アベノミクスは、経済成長できる可能性のことをある意味では全部やって、たかだかこれなんです。

■人件費は下がり続ける

もう右肩上がりなんてないです。よく考えたら、市場が広がるなんてあとアフリカの一部だけでしょう。では、経済成長って何のためでしょうか、すべて大企業優遇のためです。でも、大企業が悪いと一方的は決められません。グローバル経済の中で勝ち残らなければいけないのです。従業員を守らなくてはならない。でも経済がこの先どうなるかわからないから、なるべく貯めて、従業員に渡さないわけです。この経済システムは、彼ら経営者ですら、もしかしたら被害者かもしれないのです。人件費削減しか策がないということです。

世界的に見ても、安い人件費の国を求めてまず中国、次はベトナム。今度はカンボジアその次は…と、どんどん安いところに回していくわけですから、先進国はそこを競争しなければいけません。ですから、グローバル経済では、絶対に人件費が下がっていくのです。

■GDPは上がっているのに

グローバル化を推進しているOECDがおとし出したレポートによると、資本主義によって、資本主義が始まる前よりも格差が広がったということです。国連のデータで見ても、1820年に、貧しい国と豊かな国が1対3だったのが、20年前で1対72になったのです。

また、大企業の儲けのためには、戦争も排除しません。武器輸出三原則も解禁してしまいましたよね。そして法人税がだいたい4兆円減ったにもかかわらず、軍事予算が5兆円に増えたんです。また公共事業が5年で1兆円増えていますから、合計それだけのお金があったら、認可保育園も、大学授業料半額もできるのに、どこに使っているんだという話です。OECDによれば、日本が教育に使っているお金は平均よりはるかに下です。スロバキアと大して変わらないんです。しかし日本のGDPは大したもの、さらに今でも上がっています。でもだったら、何で俺たちの給料が上がらないんでしょう。それは一部の人が持っていつているからです。GDPは上がっているのに、生活満足度・幸福度が下がっている。

■経済成長がすべての原因

GDPには、大気汚染、交通事故で出動する救急車、ナパーム弾や核弾頭、暴動を制圧する警察の武装車両、森林の破壊、都市の拡大による大自然の喪失、ナイフ、おもちゃを売るために暴力を振りかざすテレビなどなど…も含まれているんですね。ということは、経済成長のためなら、戦争も人殺しも、原発災害などの環境破壊の弱者の犠牲も、そして私たちの暮らし、健康、時間を奪われても仕方ないんでしょう。そうか、経済成長が、実はすべての問題の原因だったんだとわかる。それでも目指すなら、さらなる格差が生まれ、貧困層が増え、生き残り競争が激化し、生きづらくなる。そもそも大量生産、大量消費、大量廃棄を今のまま続けて、人類が生き残れるのかということなんです。

■金を吸い上げるカラクリ

経済成長というのは、「できる」と人々をあおって、一部の人がまとめる集約システムなんですよ。私たちは、働け、消費せよと踊らされ、そのシステムのためにお金の奴隷になっている。消費する生き方は、結局消費させられている生き方なんです。お給料も減ったのに、物を買え、税金を払えと。収入は減っているのに、金を使え使えとうるさいでしょう。無理なんです。結局政治家と業界がくっついて、業界が儲かる仕組みを作って、赤字になったら庶民の税金で補てんして、大企業には、優遇、規制緩和、減税、いっぽう庶民には、自己責任、福祉カット、増税…経済成長なんてすべて、ほんの一部の富裕層のための、庶民から金を吸い上げるカラクリなんです。

■構造的暴力への加担と闇、悩み

これは絶対おかしいと皆さんも薄々気づいているでしょう。私はそこに加担したくありません。でも、おかしいと思っても、サラリーマンは1910年代には働く人の1割だったのが今や9割です。自由に物が言えないんです。雇用と給料を人質にとられてますから。その上時間を奪われて、ストレスをためて…これが人生だとあきらめて生きているんです。私もそうでした。

こうやって、いいなりの縦型社会システムの中では、もし良心に反することにノーといったら、クビやリストラになってしまいます。成長の名のもと、組織や利益のルールに沿うことで、人の道から外れていく。現代に働く人々の心の闇ですね。こういうのが、構造的暴力です。会社のためにはいいことでも、社会を壊していつてしまうという構造的暴力というんです。働くとどうしても、構造的暴力に加担せざるを得ない。働くという言葉の語源は、「傍らを楽しにする」ということなのに、今では傍らを「落とす」になってしまっているのです。

こうやって、この世の闇、そして自分の闇、皆さんそれぞれ持っている悩みと世界の悩みが重なり合って、自分探しが終わらないというのが、今の人たちなんです。私もそうでした。

ついこの間、とある商社に勤めていた人が退職にあたって、世界じゅうに散らばっている会社の同期に、自分がやめる理由、経済成長の限界について考えていることをメールしたら、自分も同じことを思っているとたくさん返信が来たそうです。もう誰の役に立っているのかわからない、金もうけに人生をすりへらすのはつらい、でも家族がいるから会社をやめられない、おまえがうらやましいとメールがたくさん来たそうです。

■ダウンシフトして「なりわい」を持つ

私は人に会社をやめさせるのが趣味で——私の店は退職者量産バーとも呼ばれているのですが、「なりわい（生業）」とか自給って、意外と簡単にできるということを伝えています。冒頭でご紹介したように「減速して自由に生きる ダウンシフターズ」という本を書いているんですが、ダウンシフターズとはアメリカの社会学者が生み出した言葉で、過度な消費生活から抜け出し、もっと余暇をもち、スケジュールにはバランスをとり、ゆっく

りなペースで生活し、もっと意義のある仕事をし、もっと深い価値のある日々を過ごすことを選んでいる人のことをさします。ちなみに私の「なりわい」はオーガニックバー、オープンして10年になります。

時間に追われず、人に感謝される仕事をし、お金に振り回されない、現金収入はほどほど、食べ物は自分で作る…こういう暮らし方、仕事のしかたで、今や夜の6時間だけの週4日営業、週休3日です。8年前に週休2日にして、お米と果実を作るようになりました。こういうのを、半農半Xといますが。このXに、自分の「なりわい」を入れればいいんです。私でいえば、半農半飲み屋のおやじということでしょうか。

■食べ物があれば生きていける！

「農」の部分で言うと、私は300平米の田んぼをやっている、年に150キロのお米がとれます。最初は、食料自給率が低いから、他国から土地とか水とか労働を奪わないようにと思って始めたのですが、やってみたら超楽しいんです。3畝、300平米で150キロ、家族が食べる分とお店で出す分です。ちなみに作業日数は年間で15~20日、これだけでお米が自給できてしまうんです。また大豆を畦に植えておけば、みそ、しょうゆも簡単に作れる。結果、自給して、自立して、自信になって、自由になって、安心になって、健康になって、おいしいんです。

私には、どうにでも生きていけるという感じが常にあるんです。サラリーマンのときに、あんな悩んでいた自分は何だったのだろうと。昔の職人はみんな自給していました。技術に自信を持っていて安請け合いをしない。安い仕事や、負けるという客の要望には、俺はそんな安い仕事しないよと突っぱねる。なぜそれが言えるのかというと、自分で食べ物を作っていて、別に金がもらえなくたって生きていけるからです。だから、仕事の腕を落とさず、評判も落とさず、そして不当なダンピング競争に左右されないで、いい仕事ができるわけです。

こういうことを本に書いたら、店に来る人が超増えてしまい、過労でトイレで倒れ、前歯を2本折ってしまいました。もうこれ以上歯を失いたくないと思って、5年前から週休3日にしました。

■田舎への移住は心配？

そのほか、千葉県の匝瑳市でNPOを作り、SOSA PROJECTという活動をしています。内閣府の調査によれば、田舎に移住してみたい都市住民は何と31.6%もいるんです。最初は、60歳を過ぎた定年後の人たちが田舎に行きたいのかと思っていたら、違うんです。20代が38.7%、その次は30代です。でも、医療機関や仕事があるか不安、という人も多いんですが、医療費の30兆円は薬ばかりです。薬をたくさん飲ませて、病気にさせているんです。

私は2年前に、家を作っていて指を切り落としてしまい病院に運ばれました。手術したのですが、指はくっつかなかった。軟膏を塗れといわれ医者にもらった薬を見ると、ヨードチンキと精製白糖で作ってあると書いてある。ハチミツをまねしたか？と思い、飼っていた日本ミツバチのハチミツを塗ったら、切り落とした指の先2センチが3日間で爪の先

まで戻りました。結局薬だって、自然界からまねて作ったものなんです。

財政破綻した夕張市では、医療費が全国平均を下回ってしまい、みんな寿命も延びてしまいました。医療にかかわらないほうが寿命が延びるということは、財政破綻した夕張で証明されてしまったんです。だから、医療機関がなくても大丈夫なんです。

Uターンでは、半数が減収して、でも生活は満足。移住した人たちは、収入減っているのに生活の満足度が高まっているんです。

また、一人一人の相対的価値は、人口がこれから減れば減るほど、田舎に行けば行くほど高まりますよね。やりがい、生きがいが高まっていくんです。都会でその他大勢でいるより、田舎で主役になったほうがいいじゃないかと私は思います。

■時間を取り戻して社会に目を

ダウンシフトして、小さななりわいで自給している人というのは、時間を取り戻して、大抵が社会活動をするようになります。未来のため、子供たちのために何かしたい、時間ができる、そう思うようになるようです。社会活動している人は、幸福度も高いです。

日本では、例えば、デモに行くのは「変な人」だと思われてしまうことも多い。でもヨーロッパではデモはピクニックと同じです。だから、おかしいと思ったらみんな集まってくる。このようにみんなが社会活動をする社会にならなければ、これから大変なことになります。だから、私は、時間を取り戻せば世間に目がいく、という意味をこめて、お店の名前は「たまにはTSUKIでも眺めましょ」としたんです。

■物を持たず、お金に頼らず、できることをふやす

さて、まずは私の暮らしをもうちょっと詳しくお話ししたいと思います。

サラリーマンをやめてから暮らしを変えました。辞める前は車1台、バイクが2台、自転車が2台か3台、弾けないのに楽器だらけ…これが豊かさなのでしょう。ベストセラーで『ぼくたちに、もうモノは必要ない』というのがありますね。最小限主義、こういう時代になってきました。物を少なくすることは、生き直すための助走。結果的にコストが減るから小回りがきくようになる、ということですね。

基本的に物をもたないから、おしゃれに暮らせもするんです。今の家は、門が壊れたとき、業者に頼むと30万かかるところが、自分でやると7000円で直せました。またこの間、マンション住まいの兄の自宅の給湯器が壊れて、直すのに30万かかったそうです。私はついこの間、給湯器を盗まれましたが、地元の人がタダでくれました。しかも、安くつけてくれる業者まで教えてくれて、全部で2万5000円で給湯器がついたんです。要するに、自分でできることをふやせば、兄は30万かかったけれども私は2万5000円、ということはそのだけ稼がなくていいということです。

田んぼにいますから、ビワやヨモギ、ドクダミソウがたくさんあります。なので薬を使わなくなりました。それから、掃除機ではなく、手で掃いたほうがきれいになります。家電製品もほとんどなくなりました。ティッシュも、障害者施設で作っている無添加の、古紙を使ったものを買ったり、雑誌もあまり読まなくなって、生命保険もやめ、都民共済と

全労災の月々2000円くらいで十分賄えています。

このように、生活の中から、お金の頼らない割合をどんどんふやしていけばいいということです。私たちは暮らしが大事であって、別にお金が大事ではないわけですから、お金の頼らなくても暮らせる仕組みを作っていけばいいわけです。そのためにできることをふやし、必要なものを入手する力をふやす。自分で食べ物を作るというのは、その足がかりなんです。

私たちは、不安社会に生きています。でも食べ物、家、仕事、電気、福祉、これがあれば安心なんです。デンマークは、まさに福祉と電気が安心だからみんな幸福率が高いんです。だから自分でできることをふやしていけばいい。さすがに福祉と電気は、自分で作るの難しいですが。でも、最近は電気までは自分で作れるようになってきました。

最近政府が地域包括ケアを言い出しましたが、これも地域から行動していけば不安はないわけです。結果的に、社会も変えていけます。そして地域の成功例を取り上げて、盗んでいけばいい。

パン、みそ、しょうゆ、梅干し、全部作れます。洗剤なんて一生買わないです。飲んだら危険というものを置いておくこと自体危険ですから。重曹とお酢があれば、ほとんど家の中はきれいにできます。



また今、物々交換システムが世界じゅう、日本じゅうでできてきました。また服やバッグなどはリサイクル。紙もこの15年買っていません。紙も封筒もポストにとどくものの裏を利用すればいいんです。だから、アジアとか、アマゾンの森林伐採に加担しないということにもなる。

今日本じゅう、地方に行けばわかりますが、何でも余っているんです。食べ物も、農地も、家も。だから、タダで手に入ってしまうんです。そして、加工食品を買わなくなって、調味料買わなくなって、ジュースやガムやアメを買わなくなって、外食しなくなって、お金の使わないうちに健康になってしまうわけです。

お金は、ホンモノ、長く使えるもの、人とつながれるものに使うんです。ちなみに百円ショップはなるべく絶対使わないようにしています。どこかの誰かが安く虐げられているかわかりませんからね。本物を使うと、一品一品の値は高くなりますが、総コストは下がるわけです。

食べ物もそうです。病気にならないし、おいしい。例えば、大手醤油メーカーの醤油は本来の作り方ではありません。本物の醤油は、どんなに短縮しても1年かかるものです。それが1週間で作れるということは、何か変なものが入っているし、何か変なものを使っているわけです。1年かけたもののコストは3倍になります。私のお店の料理はみんなおいしいといってくれるんですが、お醤油とみそと塩しか使っていません。化学調味料なんか買わないので、買い出しの時間も要らないし、頻度も少なくなるし、醤油は3~4倍の値段ですが、みんなおいしいといってくれるから、結局、総コスト下がるんです。

■ライフスタイル基準金額

そうやって、自分で作るクリエイティビティをふやし、文化的になって、消費を減らすと、これだけ稼げばいいというライフスタイル基準金額が出てきます。田舎へ行けば家賃は5000円から3万円ですから、東京にいて子供がいなかった人が田舎に行って、収入12万しかないのに、「何とかなるもん」といって、2人目、3人目産んでいくんです。東京では、これだけ収入が高いのに子供産まないんです。要するに、安心できる材料は、お金だけではないということです。

ライフスタイル基準金額を計算して、例えば、何かなりわいを起こすとすれば、週休2日の商売の人は、月に21か22日商売すればいいわけですから、1日5000円から1万円の仕事で生きていけるということになります。

■お店のこと～儲けない自由

私のお店のことをちょっと詳しく話します。

開店当時から変わらない目標は、絶対1人ではもうけない、右肩上がりしない、拡大再生産は絶対せず縮小再生産する、ということ。なぜかという経済成長に準じなくても幸せになれるからです。その後ろ姿をみせて、「なりわい」をふやしていきたいからです。成長不必要、効果があったら困る、売り上げが上がったら下げる努力、なるべく働かない、昼寝してナンボ。ちなみに、仕事が嫌だから働かないということではないです。楽しくて楽しくてしょうがない。

ライフスタイルの基準金額は、より多くなったらきりがないので、貯蓄も基準金額に入れて、そこから必要な売り上げを計算していけばいいわけです。それを日割りで目標にし、その目標以上売り上げがとれちゃったら、減らす努力をする。もうけ過ぎないからゆとりが生まれます。売り上げが徐々にふえたので、メニューを徐々に減らしていく。今週もまたメニューを減らします。営業日を徐々に減らし、売り上げを一定に保つ選択、これを「儲けない自由」と私は言っています。

売り上げを一定に保つと、ストレスがなくてゆとりになるし、単品に集中できますから、本当にいいものをお客さんにお勧めできるので回転率も上がります。その品の持つ物語という付加価値もつきます。ターゲットがさらに絞れて、お客さんも絞れて、顧客化しやすいし、顧客別対応もしやすくなります。

また業務が減り、在庫過多も防げます。小回りもききます。独自路線と付加価値があれば、大きな取引先に屈しなくても済みます。もし私が20店舗くらい手広くやっていたら、多分、ワタミに買収されていると思うんです。でも、こんな月商が60万円のうまみのない店にワタミは目を向けませんので、結局独自路線でいけるということです。

売り上げ拡大はメリットではなくデメリットです。当然、人件費がかかります。会社が大きくなれば、販促から、人事から、経営者が必要で、現場の人が、自分が食えるだけ以上に、その人たちの分も売り上げなければなりません。また拡大すると、他社が追随して価格競争になります。値下がりして、利益が出なくなり、在庫が過多になって…と悪循環

にはまります。だからうちの店は、スモールメリット＝小さいことのメリットを生かしていく方針なのです。

■ビジネスの本来の姿

よく、「おまえ一人じゃ雇用を作っていないじゃないか」と言われますが、確かに雇用は作っていませんが、「なりわい」はたくさん作ってきましたおそらく1000では足りないくらい、日本じゅう作ってきたんです。もっとも作ったのは彼ら彼女らですが、毎日会社をやめた、なりわいを起こした、移住したと連絡が来るんです。またその人たちの後ろ姿が、ほかの人たちの生き方を変えていくんです。

先週もメールが来ました。「自分の好きなこと、得意なことが、そのまま仕事になって、小さくても自分ですべて決められるビジネスは本当にすてきだ」と。また別の人からは「自分でビジネスをすることはこんなにも楽しくて、そして人の役に立っている実感があるものなんだとびっくりして、楽しいです」と。

実は、資本主義にとって不都合だから隠されているものがあります。それは人の、誰かの役に立ちたい、ありがとうといわれたいという欲求です。だから、自分の得意なこと、好きなことで、社会や人に必要とされることをなりわいにしていけばいいんです。自分も楽しく、人も喜んでくれて、世の中をよくするのでなければ、それは本来のビジネスではないと私は思っています。

■小さななりわいを

この時代は、小さななりわいを起こすチャンスです。拡大化が多々の問題を生んでいるのですから、より小さく、より少なく、よりゆっくり、より非効率がいい。例えば、おばあちゃんの買い物を代行して、おばあちゃんの話聞いてあげる、こんな非効率なことはありませんが、だからこそ「スーパーに自分で買いにいけば、このバナナが50円で買えるのに、あなたに買ってもらったから150円もとられちゃう。けど、あなたとお話できるから、うれしいわ」という付加価値が生まれるのですから、非効率でいいわけです。より稼ごうと思ったら、そんなことはできませんが、ある程度でいいんだといえば、計算が立ちますからね。結果、より稼がないほうがいいということになります。

地域創生が叫ばれていますが、人や地域の課題は、一つ一つが小さいんです。だから、そのサイズに合うのは、大企業ではないんです。小さななりわいは、小さくも正しい。私は、総自営業的社会というものを考えます。もちろん全員が自営業はできませんし、大企業もプロジェクトも必要です。パソコンや飛行機を作るにも企業は必要です。しかし、9割がサラリーマンになってしまったこの時代に対して、そうではない生き方があり、ベクトルとして自営業がもう一回復活してくる社会にしたい。そしてみんなが食うものを作れば、生きていくことができます。一人一人が変革して、生き方を変えていく時代になっていくんだなと私は思っています。

■経済原理が成り立たない社会

日銀が2年前に4000人を対象に世論調査をしているのですが、日本経済の成長力について、アベノミクスが稼動し始めたときからたった5カ月で、経済成長がもう見込めないだろうという人が7ポイントも増えているんです。もうみんな気づいているんです。拡大、大量生産のシステムで、物やサービスがそろって、欲望はもう伸びませんよ。もう需要を超えてしまっているんです。だから、幾ら作っても作っても、売れないのは当たり前です。だから値段が下がってきて、デフレになってしまう。

これは日銀が旗を振ろうが、みんなお金は使いません。私と一緒に活動している、とある銀行マンが内緒で話してくれるんですが、もう30代、40代の伸び盛りの会社に融資を申し出ると、「何で融資するんですか。うちは取引先にもいいお金払っているし、コアないお客さんにいい商品を渡しているのに、大きくなる必要ないんです」「いや、大きくなれば、利益も、あなたの信用も上がりますよ」「別に、大きくなったら、何がいいんですか?」「前年対比クリアしますよ」「何で前年と比べなきゃいけないんですか。去年作ったものと同じ作ったもの、違うんですから、別に前年より上がろうが、下がろうが、それは全然関係ないことでしょう」と言われてしまうんだそうです。

だから、もう作っても作ってもしょうがないんです。労働力をすべて雇って、生産設備をより稼動すると、物やサービスが売れ残ってしまうんです。そうすると、需要と供給、供給のほうが大き過ぎて、過剰な労働になり、お給料が下がるわけです。お金も、欲しいものがないから、将来不安だから貯めよう、となってしまう。もう経済の原理が成り立たないんです。

■頑張るのをやめよう

私の好きなデンマークを自然エネルギー社会に変えた方が、十数年前、NHKに出て、いました。アナウンサーが、こう聞いたんです。「日本が不況から這い上がって、幸せになるためには、どうしたらいいですか」と。彼は「もう頑張るのをやめたら、幸せになれるよ」と答えました。例えばデンマークの労働時間は年1400時間、オランダは1307時間です。ドイツも1300時間内に入ってきました。どこの国も、経済は順調ですよ。いっぽう日本は1860時間どころか、去年の厚労省のデータで、2060時間です。そして彼は「私たちは未来を予測するものでなく、選びとるものであります」と言っているんです。

衛星からみた日本の写真を見ると、日本は、その形以上に明るく見えるんです。もうこれ以上、頑張って何をしようというんでしょうか。

■価値観の転換を

これからの社会は、FEC自給圏という言い方をしますが、食べ物、エネルギー、福祉を地域で自給し、非生産的、非効率的分野にお金を投資していくべきです。子育て、非効率ですね。介護、非効率ですね。自然エネルギー、非効率ですね。なりわい、非効率ですね。農業、非効率ですよ。でも、それこそが生きるために大切なことじゃないですか。だからこそ、そこにお金を入れていくべきなんです。

これからの価値観は変わっていきます。例えば、1万人のまちを、電気とガスで暖房を

賄うには、13人の雇用が必要でした。しかし、これを地域の木材を使って温めると、135人の雇用が生まれます。今までのほうが効率的ですが、そうではなく、これからは雇用をたくさん作っていかなくてはいけない。地域の木材を使ったほうがより多く雇用が生まれ、さらに森も再生します。そのかわり、残念ながら給料は下がります。しかしそうなれば、市場に換算されていない自給、助け合い、物々交換といった非市場領域を有効活用していけばいい。収入が下がっても、安心して暮らせるということです。低収入でも安心して暮らせる暮らし、手づくりをふやして、仕事を減らすということです。

さらに言えば、自分の仕事を減らせば、人に仕事を届けられるということです。これは世界的な流れです。あのアメリカですら、ミレニアルズとって、3人に1人がこういう思考です。もう車とか商品を買う興味もあまりなく、健康志向で、共同体志向なんです。縦型を好まず、横型志向なんです。

また、非画一的な志向の世界に入ってきていて、社会貢献好きなんです。うちの店に来る若い子たちも、人のお役に立ちたいというんです。そういうように協力——分かち合いの世の中になってきている。

今は、移行期的混乱期なんです。幕末だって、明治に変わるのに20年かかったんです。日々の変化がみえなくても、この20~30年で時代はがらっと変わります。数十年のスパンを経ながら、グローバル化で失った過去のよさを取り戻しながら、グローバル化で得たこのすばらしさを、もう一回作り直していく。グローバル化の先のローカル化が始まっているのです。グローバル化で失った負の側面を矯正していくんです。

■最後に

そういう社会の中であって、私たち、労働組合の皆さんは何をすべきでしょうか。もちろん私は、現時点で、昇給やベアや労働環境改善に取り組むべきだと思いますが、同時に、先見の明をもって、新しい時代の動きを見極める必要があるでしょう。

これからの生き方、政治、経済、社会…何か皆さまのヒントなればと思ひまして、お話ししました。私も欲張って、全然ダウンシフトせず早口ですみませんでした、ご清聴ありがとうございました。